

令和3年度環境活動報告

部局名: 応用生物科学部

教育	<p>①環境科学に関する以下のとおり講義、実習・実験、演習を実施し理解と知識技術の習得に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物環境科学概論(1年生): 生物環境科学の概念 ・教養の環境学(1・2年生): 生物の多様性と人間社会に関する諸問題 ・現代環境学(1・2年生): 現代社会の深刻な環境問題を多面的に理解 ・フィールド科学基礎・応用実習(1年生): 森林生態系・農林業の基礎とフィールドワーク ・植物生態学(2年生): 生態系の概念の把握 ・土壌環境学(2年生): 土壌の諸特性と環境因子 ・水文学(2年生): 水環境と物質循環のメカニズム ・動物生態学(2年生): 生物の多様性と動物個体群育 ・農業気象学(2年生): 気象と生物生産さらに地球環境問題との関係 ・バイオマス化学(3年生): 環境を重視したバイオマス利用に関する最新の技術 ・環境微生物化学(3年生): 環境汚染における微生物による科学的役割 ・環境微生物工学(3年生): 環境汚染に対する微生物学的修復 ・公衆衛生学(3年生): 公害、地球温暖化等の環境問題に関する知識と考え方 ・環境衛生学(3年生): 環境問題を体系的に学び、改善に向けた知識と考え方 ・水圏環境生態学(3年生): 水田、水路等の環境と生物多様性保全 ・環境施設学(3年生): 農業用水路など農業施設の環境配慮 ・ピオトープ論(3・4年生): 身近な自然保護・環境保全 ・農業環境修復学(3・4年生): 安定した農業生産のための環境修復 ・野生動物医学(4年生): 野生動物を含めた環境保全に関する獣医学的アプローチ・環境再生医プログラム ・生態保管理学特別演習(6年生): 生態系の一構成要素である野生動物の、保全を含む管理の概念や手法 <p>②実験・実習のための安全マニュアルに基づく講習会として、薬品管理支援システムに関する講習会や寒剤・高圧ガス取扱講習会の案内をするとともに対象者への受講を行っている。(R3.4)</p> <p>③実験・実習のための安全マニュアルを配信する(R3.10)とともに安全教育の実施を徹底するため教育訓練記録簿を作成し管理している。</p>
研究	<p>①学部教員の中で環境、生態系保全、環境保全などをキーワードにした研究を行っている。</p> <p>例えばresearchmapデータから2021年を出版年として「環境(environment)、保全(conservation)、生態系(ecosystem)」をタイトルに含む論文が12編、MISCが2編あったことをはじめ、農業に関連した題材や地球環境に関連した研究テーマとして実施し出版等も行っている。</p> <p>②野生動物管理学研究センターが主体となり岐阜県と協力して令和3年度から基礎研究として開始した野生動物広域カメラモニタリング調査をはじめとして多くの保護管理や鳥獣害対策に関する研究を実施している。</p>

<p>社会連携</p>	<p>①「博物館・岐阜大学連携企画展 ぎふの鳥 ライチョウ ―知って守ろう県の鳥―」を開催し、岐阜県の豊かな自然の姿を紹介するとともに、ニホンライチョウの保護活動への関心を高める機会とした。(R3.4.24-6.27)</p> <p>②地域と連携して、以下の公開講座等を実施した。 中学生のための体験科学講座「あなたも科学者！」を開催し、中学生23名が参した(R3.10.16)</p> <p>③岐阜県をはじめとして地方自治体の環境関連の委員会等に教員が参加し、地域の環境行政に貢献している。</p> <p>④「地球史における水・土・人の循環」をタイトルとした講演会(オンライン)を実施した。(R3.12.4)</p> <p>⑤名古屋大学フューチャー・アース研究センター 公開シンポジウム2021「適応と緩和・脱炭素社会」を実施した。(R3.12.18)</p> <p>⑥ぎふ気候変動適応セミナーとして「温暖化による果樹への影響は?～カキ・クリを例に～」をタイトルとした講演会(オンライン)を実施した。(R3.12.23)</p> <p>⑦SDGsサイエンスカフェ「科学者の地域課題への挑戦～多様な市民と協働型での解決をめざして～」を共催として実施。(R4.1.30)</p> <p>⑧野生動物管理学研究センターで連続講座「岐阜県の野生動物問題を考える」を3回にわたり実施。(オンデマンド:R4.1.19-1.26、R4.2.9-2.16、R4.3.9-3.16)</p>
<p>キャンパスプラン</p>	<p>①ISO14001教育訓練再確認シートにより自己啓発に努めるとともに、「ISO14001環境マネジメントシステム」の一層の推進を図った。</p> <p>②今年度1回行われたクリーンキャンパスに対し、多数の教職員・学生の参加により、環境に対する意識の向上を図ることができた。</p> <p>③学部内に省エネ・環境に関するポスターを掲示し、教職員・学生の環境に対する啓発を行った。</p> <p>④学部の安全衛生推進室が作成した「実験・実習のための安全衛生・環境マニュアル」を使用して、全ての研究室を対象に研修を実施した。教育訓練記録簿により受講確認を行った。</p> <p>⑤学部の資源別回収要領や廃棄物分別手引きに基づき適切な処理に努めた。</p>